

2010.春季号 (No.122)

関

KAN

交

KO

研

KEN



目次

関交研
2010 春季号

〈はじまりの奈良、

めぐる感動〉

平城遷都1300年祭

奈良県知事

荒井正吾

(平城遷都1300年
記念事業協会理事長)

近畿の世界遺産の旅 唐招提寺

審査委員長

2009年度懸賞論文審査報告

斎藤峻彦

5

1

11

かんこうけんコロキウム

15

お役に立ちました！

サロンセミナー

27

(財)関西交通経済研究センター

常務理事

編集後記

坪倉啓三

33

～はじまりの奈良、めぐる感動～

平城遷都1300年祭

本格的フィールドミュージアム平城宮跡
古代人が国造りにかけた情熱と
華やかな天平文化がよみがえる



奈良県知事 平城遷都1300年記念事業協会理事長

荒井正吾

元明天皇により藤原京から遷都が行われた平城京（710～784）。その遷都から1300年を祝う「平城遷都1300年祭」が奈良県全域を舞台に開催中。4月24日にはメイン会場の世界遺産・平城宮跡がオープンした。悠久の都・奈良は今新たな歴史を刻む！。

山川異域 風月同天

寄諸仏子 共結来縁

長屋王が中国の僧侶に喜捨するため作らせた袈裟千領の縁に刺繍された四字の句です。「山川は域を異にすれども、風月は天を同じくす。諸（これ）を仏子に寄せ、共に来縁を結ばん」——住む土地は違うけれども、仰ぐ天の月、吹く風は同じである。この袈裟を仏の子どもたち（僧）に喜捨し、ともに来世での縁を結ぼう——。

日本から中国の僧に喜捨が行われた話は、遣唐使船に乗って唐へやって来た二人の留学僧から渡日を促された鑑真和上によって742（天平14）年、弟子たちに語られました。



遣唐使船前

「遠く離れた日本へ渡るのは大変危険。生命の保証がない」と答える弟子に、鑑真は「日本は仏教有縁の地である」例として長屋王の袈裟の話をしたのです。ちなみに、千領の袈裟は717（養老元）年、遣唐使に託されたことが後の研究で分かっています。

そして、「仏法のためならば、何の命が惜しかろう。みなが行かないなら私が行く」と鑑真は決意します。それを聞いて弟子たちも随行することになったのは、ご存じのとおりです。鑑真和上の伝記『東征伝』に書かれた、あまりにも有名な場面です。

ここから読み取れる情報の一つは、日本と唐は大変友好的だったということ。鑑真は日本からの招きを受ける前、すでに長屋王の事蹟を予備知識として持っていたのです。遣唐使船の派遣は十数年に一度のことで、決して頻繁なものではありませんでした。しかし、日本が持ち続けた唐への熱い思いは長屋王の四字の句に託され、記憶に残り、唐における第一級の高僧を動かしたのです。鑑真は渡航に5度失敗、6度目で多くの弟子や工人たち、数々の唐の文物とともに、ようやく来日を果たしました。

鑑真和上のみならず、唐や新羅、渤海との交流は異文明・文化を数多く日本にもたらしました。「律令」法典、漢字、儒教、仏教、米・味噌・麵・饅頭などの食料、



大量の銅銭、香料・薬物など。

人々はまっさらな気持ちで学んだことでしょう。このとき、政治、経済、社会などのさまざまな分野で国家としての基礎が築かれ、絢爛たる天平文化が開花しました。唐の都とは違い、塙で囲われていない平城京には、たくさん外国人が闊歩し、おおらかな気風が満ちあふれていたことと思います。大仏開眼の導師を勤めたインド僧・菩提僊那（ぼだいせんな）も遣唐使を介してやって来た外国人の一人です。当時は日本の歴史上、最も国際的に開かれていた時代で、平城京はアジア・西域文化の集積地でした。

いざ子ども 早く日本へ 大伴の御津の浜松 待ち恋ひぬらむ
(さあ子どもよ、早く日の本の国、日本へ帰ろう。大伴の御津の浜の松も、われらを待ち焦がれていることであろう)

万葉集に収められている山上憶良の歌です。中国に対して初めて「日本」の国号を称し、認めてもらうことに成功した遣唐使の一行に向けて、帰国前の宴席で披露されました。

先人たちの努力で、以後、当時の国際社会で国号としての「日本」



が認知されていきました。平城京の時代は、後の日本に決定的な影響を与えた時代です。日本のはじまりとも言える平城京が1300年前、奈良の地に誕生した——「平城遷都1300年祭」は、このことを「祝い」「感謝」し、未来を「考える」お祭りです。

今年一年、奈良県内各地では、歴史、文化、豊かな自然などを「展示物」としたイベントを続々と開催しています。4月24日からは1300年祭のメイン会場、世界遺産・平城宮跡がオープンします。平城宮跡会場は従来の博覧会形式とは違い入場料フリーです。往時の平城京と同じく内外を隔てる柵は設けません。特に第一次大極殿は必見です。文化庁が9年がかりで復原・整備した建造物で、間口約44メートル、総高約27メートル、屋根瓦総数約10万枚の偉容を誇っています。

そのほか、遣唐使船を実物大で復原する「平城京歴史館／遣唐使船復原展示」、木簡作りや疑似発掘を体験する「平城京なりきり体験館」などの参加体験型の施設がそろっています。約1300鈔、広々とした平城宮跡に立ち、国造りにかけた人々の雄大な心を体感してください。



大 極 殿

平城遷都1300年祭

奈良県で12月31日まで開催中。県内でさまざまな行催事を展開する「巡る奈良」では、県内約50社寺で「～祈りの回廊～奈良大和路 秘宝・秘仏特別開帳」などを順次開催している。

メイン会場の平城宮跡は4月24日から11月7日まで開催。

季節ごとに「花と緑のフェア」（4月24日～5月9日）、「光と灯りのフェア」（8月20日～27日）、「平城京フェア」（10月9日～11月7日）のイベント期間もあり。

問合わせ

コールセンター

TEL.0742-25-2010

FAX.0742-20-0710 (8:30～17:30、無休)

<http://www.1300.jp/>



近畿の世界遺産の旅

鑑真和上の想い息づく

唐招提寺

近鉄 檀原

線「西ノ京」

駅に降り立つ

と、眼前に色

鮮やかな「葉

師寺」の建物

が広がる。こ

の葉師寺を横

目に今日の訪

問先「唐招提

寺」へと歩み

を進める。



葉師寺を通り過ぎると道路の両脇には古(い

にしえ)の風情を醸す民家の塀が続く。その塀

の前には水路がひかれ、民家の向こうには、田

園が広がる。まさに昭和の良き時代を彷彿とさ

せるのんびりとした空気が満ち満ちている景色

だ。途中の民家の垣間見える庭先には梅の花だ

ろうか2月の半ばというのに早くも春を招き寄せる彩りを見せていた。

ここは奈良市五条町。眼前に広がる景色は郊外のしっとりとした風景なのだが、平城京の時代には右京五条二坊と呼ばれ、首都の中心部であったと聞く。

穏やかな風景に心癒されながら、ほどなく「唐招提寺」に到着。ここには、葉師寺の色鮮やかさは好対照にモノトーンの世界が広がり、平日の午前中ということもあってか、参拝客もまばらで、境内は静寂に包まれていた。

鑑真と唐招提寺

唐招提寺は、言わずと知れた鑑真和上の開かれた寺である。まずは、唐招提寺の沿革を見てみよう。

唐招提寺のホームページには以下のように記されている。

唐招提寺は、南都六宗の一つである律宗の総本山です。

多くの苦難の末、来日をはたされた鑑真大和上は、東大寺で5年を過ごした後、新田部(にたべ)親王の旧宅地(現在の奈良市五条町)を

下賜されて、天平宝字3年(759)に戒律を学ぶ人たちのための修行の道場を開きました。

「唐律招提」と名付けられ鑑真和上の私寺として始まった当初は、講堂や新田部親王の旧宅を改造した経蔵、宝蔵などがあるだけでした。

金堂は8世紀後半、鑑真和上の弟子の一人であった如宝の尽力により、完成したといわれます。

現在では、奈良時代建立の金堂、講堂が天平の息吹を伝える、貴重な伽藍となっています。

聖武天皇(701~756)は、諸国に国分寺、その総本山として東大寺を建立するなど、仏教の普及に努めた人であるが、当時、仏教が隆盛を極める一方で僧尼令に違反する僧尼が多く、朝廷は僧尼の質を向上させるために遣唐使の派遣に合わせて授戒師の招請にあたった。

日本からの要請を受けた唐の高僧鑑真は、弟子たちに渡航希望を募ったもの





の、命を懸けての渡航に誰一人として応じる者がなく、「(仏)法のためである。たとえ渺漫(びょうまん)たる滄海(そうかい)が隔てようと命を惜しむべきではあるまい。

お前たちが行かないなら私が行くことにしよう」(井上靖「天平の甍」より)と自ら日本へ渡ることを宣言した。

以後、12年間に亘る苦難を経て、6度目の航海の末、ようやく日本の地を踏む。天平勝宝5年(753)のことであった。このとき鑑真はすでに66歳の老齢となり、度重なる苦難の結果、視力は奪われていた。鑑真が日本へ渡ってこられるにあたっての艱難辛苦は、井上靖の名著「天平の甍」で詳しく書き記されているので、一読をお勧めする。

来日するや、鑑真は、聖武上皇らに菩薩戒を授けて「大和上」の称号を賜わり、以後、東大寺において戒壇院を築き登壇授戒の制度を整えるなど、朝廷の要請に応じて戒律を軸とする仏法の教えに努めた。来日して6年、鑑真和上は、

東大寺という国家機構から退き、民衆に仏の教えを説くという本来やりたかったことを具現化するための私寺として唐招提寺を建立した。大和朝廷は、以後、僧になる者はこの唐招提寺で受戒することを義務付けた。

「唐招提寺」の寺名は、「唐」から「招」かれたお坊さんが建てたという意味にとられやすいが、実は、「唐」とは「広く(大きく)」、「招提」とは「人々が集まる」という意味のサンズクリット語に由来している。記録によれば、かつてはその寺名のとおり僧のみならず、民衆を含め3000人ほどの人が寄宿して教学に励んでいたという。

シンプルな鑑真和上の教え

奈良(南

都) 仏教は学問的色彩が濃く、興福寺、薬師寺などの法相唯識、大安寺の三論宗を代表に



学問寺が中心を占め、修行僧にとってですら極めて難解な仏法の教えは庶民にとって近寄りたくないものであったろう。

これに対し、唐招提寺(鑑真和上)が説いていた教えは、個々が心がける努力目標「戒」であり、教団が守るべき規則「律」、すなわち戒律を軸としての仏法の教えであった。

不殺生戒(ふせつしょうかい)

生き物をことさらに殺してはいけない。

不偷盗戒(ふちゆうとうかい)

あらゆるものを盗んではいけない。

不邪淫戒(ふじゃいんかい)

自分の妻(夫)以外と交わってはいけない。

不妄語戒(ふもうごかい)

うそをついてはいけない。

不飲酒戒(ふおんじゅかい)

酒を飲み過ぎてはいけない。

仏法の最終目標は悟りを開くことだが、鑑真和上の教えは、和上が定めた基本的な五つの戒(俗に「五戒」といわれる)を守っていれば、人はみんな幸せになれ、やがて悟りを開くことができるという極めてシンプルなもので、まさに、仏法の基礎が込められた教えであった。

厳しい修業に努める僧侶のみでなく、一般民

衆がいかにかに仏の教えを身につけてもらえるかが鑑真和上の願いであり、仏への道を分かりやすく説く鑑真和上の教えは、広く民衆に受け入れられた。

経済界や日常生活での事件等、マスコミを賑わす今日の様々な出来事を見ていると、1250年前の鑑真和上のこのシンプルな教えは、いまなお、あらゆる分野に当てはまる普遍的価値を持っている。

鑑真の想い息づく唐招提寺

若葉して御目の雫拭はばや

く折しも初夏、あたりの樹々に若葉の色がみずみずしい。この若葉でもって、鑑真和尚の盲いたお目の涙をそっと拭ってさしあげたい。

唐招提寺を訪れ鑑真和上坐像に対面した松尾芭蕉は、鑑真の来朝にあたっての苦難に想いを



馳せ、目盲いてなおその使命を全うしようとする強靱な精神力に畏敬の念を込

めてこの句を詠んだ。

坐像は、師の大往生を予知した弟子たちの手によって作られたが、そこに秘められた鑑真和上の揺らぎのない信念と、広く世界の隅々まで仏の教えを届けようとする使命感に燃える熱い想いは、現代においても多くの人々の心に共鳴して感動を呼び起こす。

唐招提寺は、永年にわたって各地で展示会を開催してきておられるが、その度に、展示された鑑真和上坐像を前に感動の涙を流す人も多々あると聞く。

鑑真の精神は、いまなお唐招提寺の境内全体に息づき、訪れる人々を癒しの世界へとやさしく包み込む。それ故に、唐招提寺を訪れる参拝客は、団体客より個人、さらに圧倒的にリピーターの方が多くそうだ。

一般的な観光地にみられる寺社仏閣と比較して、どちらかといえば、唐招提寺境内は観光めいた風情は薄い。そのこともあってか、ときどき、参拝者から案内掲示等が不親切だとのお言葉を頂戴するそうだが、参拝順路にこだわることなく参拝者自身の心の赴くままに鑑真和上の教えの世界に浸ってもらいたい、というのが唐招提寺としてお考えのようだ。

末寺が支えた唐招提寺

檀家を持たない唐招提寺は、江戸時代までは知行地からの年貢で維持されてきたが、日本国中の寺院を混乱の渦に巻き込んだ明治維新の廃仏毀釈の嵐に、この唐招提寺もまた存続の危機にさらされることとなる。

知行地の没収は言うまでもなく、境内地ですら、お堂の周囲の「雨だれ落ち」から外はすべて国に没収され、やがてそれらの境内地は田んぼへと姿を変えていく。大正時代の俳人、松瀬青々は、こんな様子を見て

門を入れば両に稲田や招提寺と詠んだ。

その後、代々のお坊さんたちの懸命の努力で、そのほとんどを買い戻し、現在では往時の姿を取り戻している。



こうした苦難を経て、戦後になってようやく、拝観料収入で維持・運営できるまでになったが、それまでの約100年の間は、唐招提寺のみな

らず、律宗の各末寺までもが末寺である京都の壬生寺の御祈祷収入によって維持されてきたそう
うだ。

壬生寺は唐招提寺の末寺として鎌倉時代の正
暦2年（991年）に創建され、別格本山とし
て代々重要な役割を担ってきたが、こうした話
をお聞きすると、壬生寺の担ってきた大きな責
務と、お寺を守り続けようとするお坊さんたち
の気概に今更ながら驚かされる。

現在、唐招提寺は6名のお坊さんと20名の職
員の皆さんが維持・運営にあたっておられるが、
うち3名のお坊さんは他のお寺との兼務だそう
だ。

唐招提寺の二つの使命



お話を伺った石
田太一執事は「唐
招提寺には二つの
使命がある」と
おっしゃる。一つ
は「鑑真和上の教
えをより多くの
人々に伝えるこ
と」、二つには「先

人が残した優れた文化財・国宝を後世に伝える
こと」だ。しかし、この二つの使命は、極めよ
うとすればするほど相反する矛盾を生み出すこ
ととなる。

近年、参拝客のモラルも様変わりしつつある。
仏像が盗難に会うお寺が日本の各地に続出す
る。侵入を防ぐための柵は平然と乗り越える。
そこにはお寺という空間に身を置いて自らの心
を高めようとする気持ちは微塵も存在しない。
極一部とはいえ、こうした参拝客が存在するた
めに、この唐招提寺に限らず、日本中のお寺は
セキュリティの強化を求められることとなる。
鑑真和上の教えは「来る者拒まず、去る者追
わず」という広い心にある。
「鑑真和上のお力ならば、悪人も即座に善に導
くことができるのですが、我々ではなかなか
かそこまでは…」

と石田さんは苦笑いされた。
拒まなければならぬ参拝者や、追わなけれ
ばならない参拝者が存在するという現実。そこ
に、大きなジレンマがある。
仏教は生きている。混沌とした現代で、鑑真
の唐招提寺だからと言って胡坐をかいていられ
る状態ではない。時代の流れを読み、今の人々
が求めるものとのバランスが必要であり、それ
へ向けての不断の努力を必要とする。

世界遺産と平城遷都1300年祭

唐招提寺は、古都奈良の文化財として
1998年に世界遺産に登録された。当時は、



日本国民の中に
世界遺産ブラン
ドは定着してい
なかったが、近
年は日本でも世
界遺産へのブラ
ンド意識の変化
は確実に起こつ
てきている。今
や、観光資源の
目玉として世界
遺産が活用されるようになり、特に最近では地
域住民、県民を挙げての世界遺産登録へ向けて
の取り組みが各地で起こっている。
「西の京というこの小さな地域に、薬師寺さん
とこの唐招提寺という二つもの世界遺産が存在
するということは考えたらすごいことのはずな
んですが、残念ながら世界遺産に対する奈良県
民、地域住民の方々の関心は、必ずしも高いと
は言えません。もう少し、地域が一体となって

この世界遺産を守る…、例えば、世界遺産にふさわしい地域の景観を守り育てていくなど…、機運を盛り上げていただければありがたいのですが：」

この西の京地区も老齢化によって空洞化が進んでいるという。地域全体が、世界遺産を有効に活用し、若い人たちがこの地域にとどまってくような環境づくりは、地域の活性化にとっても大切なことだと石田さんは力説する。

唐招提寺においては、12年がかりで金堂の大修理に取り組み、2009年秋に無事成し遂げた。今年、奈良県民挙げて取り組む平城遷都1300年祭のプレイベントとして、この平成の大修理落慶を大いに活用してもらったそうだ。今後、平城遷都1300年祭の中でも、地元の方々と知恵を出し合って、一致団結してやることを探していく必要があるとおっしゃる。

人間らしい時間を取り戻すために

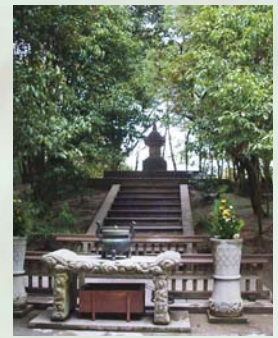
近鉄「西の京」から薬師寺を経て唐招提寺まで、まさに田園風景を楽しみながら歩いて辿るには、頃あいの距離でもある。車のう回路を確保しこの道を歩行者専用にして、沿道には風情

溢れる茶店であったり、工房であったり、観光客ももつと楽しめるし、

地域の活性化にもつながるであろう。石田さんの夢は大きく膨らむのだが、まずは、唐招提寺の境内地内を充実させ、唐招提寺から水が浸み出すように地域への働き掛けを心がけたいとおっしゃる。

今日、日本全体が、時間と成果（利益）に追われる日々の生活に、身も心も疲れきってしまっている。

鑑真和上の教えに浸りゆったりとした時間を感じ取って、人間本来の姿を取り戻せる時間の流れを再認識することが大切な時代でもある。唐招提寺の境内奥深くに、静寂に包まれて鑑真和上の眠る墓所がある。

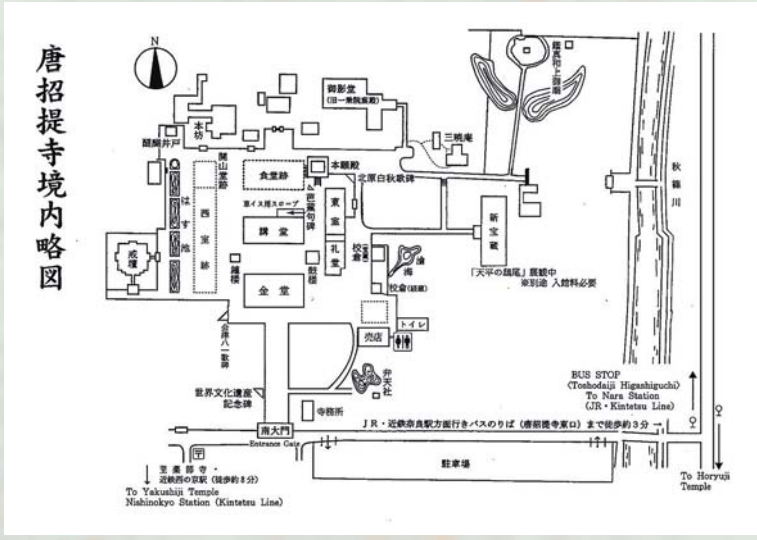


(加々里 研一)

【取材協力】

宗教法人律宗執事(前唐招提寺執事)

石田太一 師





二〇〇九年度懸賞論文審査報告

〔応募論文の講評を兼ねて〕



審査委員長

高藤 峻彦

二〇〇九年度における「関交研懸賞論文」には4編の論文の応募があった。これら論文については、6名の審査委員による個別の審査のプロセスを経て、二〇〇九年一月二十四日（月）に審査委員会が開催され、長時間におよぶ厳密な審議を行った結果、本庄由佳さん・日野晃宏さん（姫路獨協大学医療保険学部理学療法学科・共同執筆）の論文「城郭観光におけるバリアフリーに関する研究」が第1位に選定され「優秀賞」の受賞が決定した。以下では今回の応募論文に関する審査のポイントや講評を中心に、当該懸賞論文の審査報告をさせていただきます。

応募された論文4編はいずれも力作であり、それぞれの研究テーマに対する執筆者の熱意と真摯な取り組みの姿勢を伝える作品であった。応募された方々には今回の懸賞論文への応募に対し感謝を表するとともに、日頃から研究に研鑽を積まれていることに心から敬意を表させていただきます。

丁寧な調査、様々なフィールド研究への汎用性を高く評価された「本庄論文」

さて優秀賞の受賞となった本庄論文は、障害者や高齢者が移動するさいの各種施設におけるバリアフリーを推進する法整備が整い、またこれらの企画や設計に際しユニバーサルデザインの理念が浸透する中で、関西の有名観光地である新旧の城郭―姫路城、大阪城、彦根城―に着目し、実際に車いすを使った移動体験を通してこれら観光施設におけるバリアフリーがどの程度実現されているかについて点数評価を行い、改善施策の提言を行った研究である。

点数評価を行うための移動体験は、平山城で中心部に天守閣をもち多数の観光客が訪れるという点で共通性のある上記3城郭を選び、城郭内に設定された一般観光客および車いす利用などバリアフリーに配慮した2つの見学コースにしたがって実際に車いすを使って移動すること―移動者は健常学生―により実施された。評価は、段差、傾斜、通路の幅、トイレ、手すりの5項目を対象に、自力走行可、介助1名が必要、複数による介助が必要、通行不可、の4段階に分け、それぞれ0～3点の4段階で点数評価を行い、合計得点が低いほどバリアフリーの達成度が高いという方法で行われている。その結果、姫路城はコース別にそれぞれ33点・42点、大阪城は7点・10点、彦根城は12点・30点となり、歴史文化遺産である城郭と近代工法で建造された城郭との格差が明らかとなる一方、コースによる格差が大きいことも判明した。また加点个所が多かったのは姫路城、平均加点が高かったのは彦根城であったとし、さらに両城郭の天守内への車いすによる進入は不可能であるなど、国宝や世界文化遺産クラスの歴史的城郭には車いすによる移動を妨げるバリアが多いことを指摘している。

調査の結果、城郭観光におけるバリアフリーの障害となるものは主に段差と傾斜であることが明確となったが、彦根城のように城門等の敷居が高く長い階段や急勾配が多い城郭に比べると、姫路城は傾斜部を通行するさいに楔状の鉄板を置くなど工夫を凝らせば車いすにとつてのバリアを大きく低減できるのではないかとしている。3城郭の中でバリアフリー化が最も進んでいるのは近代建築物である大阪城だが、トイレやコースの設定におお改善の余地があると指摘する。最後に国宝級の歴史文化遺産において、政府の観光振興策の一環である「高齢者等が旅行しやすい環境づくり」を推進し、バリアフリー観光の目標である「Tourism for All」に近づけるためには、長野市善光寺のような仮設スロープの設置、あるいは香川県金比羅宮の籠による階段移動のようなマンパワーによる援助システムの導入が必要であると提言している。

本庄論文は、6種類の個別項目別の審査を経て行われる総合評価において高い評価を受けただけでなく、丁寧な調査、理解しやすい文章、論証整理、様々なフィールド研究への汎用性の高さ、が審査委員により高く評価された。また、障害者・高齢者のバリアフリーを謳いながら車いすの調査に止まった点に対しては今後の残された分野への研究の拡張を期待する声が出された。

汎用性・有用性が評価の差

審査の個別評価・総合評価の点で本庄論文に比肩したのは、観光産業における第三セクター事業のコーポレート・ガバナンスについて、出資割合というカネの面だけでなく役員構成というヒトの面にも着目して定量的に分析を試みたA論文であった。民間出資割合と役員構成のデータ

を統計学的手法を使って分析し、同事業の経営パフォーマンスに関する先行研究が導出した仮説を検証するという学術性に優れた論文であり、正統的かつ学術的な研究方法を用いた同論文の学問的なレベルの高さは審査委員会において高い評価を受けた。さらに、研究視点の獨創性、論理性・信頼性、完成度の高さなどにおいても評価が高く、全体として優秀賞の論文に引けを取らない審査結果が得られた。

評価の差を生んだのは研究結果の汎用性や有用性に関してであった。A論文が導いた仮説検証の結果は学術的には貴重な研究成果であるといえようが、第三セクター事業の経営パフォーマンスを左右する多くの要因の一部分が対象として取り上げられ、両者の因果関係の有無が検証されただけでは、観光事業の具体的な経営改善や政策選択肢など、応用可能な提言には結びつきにくいのではないかと意見が多くを占めた。本懸賞論文については「近畿圏における運輸交通・観光事業の発展と経済社会の進展に貢献することを目的に」という文章で論文募集の趣旨が表明されている。受賞に関わる審査結果を最後に分けたのは、関西交通経済研究センターが行った論文募集の趣旨に応募論文がどこまで適合的という評価視点であった。

データに基づく論証と検証作業が重要

受賞作とはならなかったB論文とC論文はいずれも努力作であった。北近畿タンゴ鉄道（KTR）の再生に関わる試案をテーマとしたB論文は女子大学生の目から見た地方旅客鉄道の再生策を個別的かつ情熱的に論じた論文である。KTRの輸送実績や営業政策の経緯を分析し、再生策として駅へのコンビニ設置案、新企画のための各種アイデア、運賃政策への期待など、さまざまな提案が行われる。ユニークな発想、たし

かな文章力で丁寧に論述された研究成果は審査委員の間で高い評価を受けた。反面、高校生を対象に実施したアンケート調査の設問の仕方や調査結果の活用法、あるいは一部提案の実現可能性などの点で疑問符がつく部分もあった。固有名詞の記述などには正確な表現が求められるので、この辺りに配慮しながら地方鉄道再生を目的とした研究のいっそうの前進に期待したい。

C論文は国土交通軸からのアクセスが不便な奈良県の事例を念頭に置き、近畿地方全体の交通アクセス改善案を論じ、八尾空港の活用、旧阪和貨物線の活用、近鉄―阪神―山陽間の列車の相互直通、地下鉄今里筋線の天王寺延伸、など意欲的な交通改善案の可能性を探っている。審査委員会では著者（男子大学生）の観察眼の鋭さ、既存施設・廃線跡の活用などに関わる斬新な着想が評価される一方で、基礎的なデータ情報への言及が少なく、提案の際の論証が十分になされていないこと、提案の中身がやや総花的になっていることなどの問題点が指摘された。この種の提案の説得力を高めるにはデータ等を用いた論証や検証作業を行うことが大切であり、今後の研究の継続・充実をお願いする次第である。

優秀賞受賞者に対しお祝い申し上げるとともに、以上の講評を参考にしていたとき、二〇一〇年度においてはさらに多くの方々が当懸賞論文に応募されることを期待したい。



優秀賞受賞論文

「城郭観光におけるバリアフリーに関する研究」

姫路獨協大学 医療保健学部理学療法学科

本庄由佳・日野晃宏

【要旨】

今日、交通機関や建築物のバリアフリー化が徐々に広がり、高齢者や身体障害者の外出も次第に増えてきている。日常生活だけでなく観光分野においてもバリアフリーの重要性が考えられ始め、「バリアフリー観光」という言葉も使われるようになってきている。しかし、障害者や高齢者が世界文化遺産や文化財を観光すること、バリアフリー、ユニバーサルデザインを関連づけた先行研究は見当たらない。そこで本研究は、世界文化遺産や文化財の代表として姫路城、大阪城、彦根城の三つの城郭を対象とし、バリアの多さを評価した。採点項目は段差、傾斜、通路幅、手すり、トイレの5項目とし、0～3点の4段階でチェックシートを作成した。

車椅子を用いて実地調査を行い、現状の把握と問題点の抽出を行った。結果は、大阪城が最もバリアが少なく、ボランティアガイドが城内を巡回しているなど案内や説明などのソフト面でも秀でていた。姫路城と彦根城では多くのバリアが存在し、ソフト面での取り組みも不十分であった。バリアの多くは段差と傾斜であった。歴史的価値を守るため、文化財保護法により城郭の構造に直接手を加えることは困難である。そこで、バリアフリー観光を実現するには建築学的な領域でのアイデアや工夫、マンパワーによる援助などが有効ではないかと考えた。

国宝で初めて仮設スロープを設置した善光寺（長野県長野市）、マンパワーでの援助を実践している金毘羅宮（香川県琴平町）を参考にして環境整備を行えば、高齢者や障害者が文化的活動を円滑に行いやすくなる。



定期開催

かんこうけん

コロキウム

colloquium

「かんこうけんコロキウム」は、
☆賛助会員の方々への時宜に応じた
情報の提供と懇談の機会の提供の
場

☆産官学のハブ機能(すなわち、情報
ステーション機能、コーディネート
機能及び新たな取組みの創出)強
化のための第一歩

とする位置づけで、年4回程度を目
標に今年度から開催することとしま
した。

第1回「かんこうけんコロキウム」
は、平成21年10月29日(木)に(財)大阪
陸運協会会議室において14名の参加
を得て開催し、近畿運輸局企画観光
部の平嶋部長から「関西の観光」と題
してご講演をいただきました。

また、第2回は、平成22年2月9日
(火) (財)大阪陸運協会会議室において
16名の参加を得て開催し、「物流/
環境の現状と施策の動向」をテーマ
に、近畿運輸局交通環境部の小関部
長からご講演をいただきました。
以下、その概要を掲載します。

開会挨拶



(財) 関西交通経済研究センター

理事長 岩崎 勉

本日は記念すべき1回目のコロキウムにお運びいただきまして、本当にあ
りがとうございます。

当財団は、賛助会員の皆様の年会費と日本財団の助成金でもって運営をさ
れてきております。会員会社の皆様方により満足いただけるメニューはない
かと、こういう観点で相談をいたしました。コロキウムを立ち上げました。
企業活動、あるいは学会等々の活動、研究活動をされておられると、やは
り、自分の会社の常識は世間の非常識と申しますし、外に学ぶ機会を、小さ
な井戸端会議かも知れませんが、そういう場を提供申し上げて、色々な意味
での交わり、コネクション、コミュニケーションができたらいいなというこ
とで考えた次第でございます。

第1回

かんこうけん

コロキウム

colloquium

平成21年

10月29日(木)

今日の第1回目のコロナウィムを通じて、運営の問題も含めて今後更に充実を図りながら継続をさせていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

基調講演

「関西の観光」



近畿運輸局企画観光部長

平嶋 隆司氏

◇ 観光立国 ◇

☆ 観光立国の意義

- ・ 観光交流人口の拡大による日本の再生
- ・ 国際観光の推進は我が国のソフトパワーを強化するもの
- ・ 観光は少子高齢化時代の経済活性化の切り札
- ・ 交流人口の拡大による地域の活性化
- ・ 観光立国により国民の生活の質の向上

☆ 観光立国推進基本計画に基づき

「観光庁アクションプラン」の策定（平成21年1月28日）

- ・ インバウンドの推進…訪日外国人旅行者数を2010年までに1千万人、2020年までに2千万人
- ・ アウトバウンドの推進…日本人海外旅行者数を2010年まで2千万人
- ・ 国内観光旅行の振興…日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数を2010年度までに4泊
- ・ 国際会議の誘致開催…国際会議の開催件数を2011年までに5割増等

☆ 将来推計人口と国内における旅行消費額

- ・ 近畿圏の将来の生産年齢人口（2035年）は2005年に比べ29%減
- ・ 国内における旅行消費額（平成19年度）は23.5兆円で、うち宿泊旅行が15.3兆円（65.1%）
- ・ 我が国経済への貢献度は、生産波及効果（53.1兆円）、付加価値誘発効果（28.5兆円）、雇用誘発効果（44.1万人）

◇ 国際観光 ◇

☆ 我が国の出入国旅行者数国際ランキング

↳ 出国旅行者数（アウトバウンド）に比べて
入国旅行者数（インバウンド）が少ない

・アウトバウンド（2007年）は、世界第15位（アジア第2位）

・インバウンド（2008年）は、世界第28位（アジア第6位）

☆ 国・地域別訪日外国人旅行者数

・韓国（238万人）、台湾（139万人）、中国（100万人）で、
総数835万人の57%を占める。（2008年推計値）

・2003年のビジット・ジャパン・キャンペーン開始以来、訪日外国人旅行者数は521万人から835万人（2008年）まで順調に増加、2009年はリーマンショックによる世界経済への影響とインフレエンザによりマイナスに転じる。

☆ ビジット・ジャパン・アップグレード・プロジェクト

・2010年に外国人旅行者数1000万人の目標達成のために訪日旅行の満足度を高め、訪日旅行の選択を定着することにより、訪日リピーターのさらなる獲得に取り組む。

・2010年が視野に入ってきたことを踏まえ、ポスト2010を見据えた施策を展開する。

☆ 訪日外国人の個人旅行者、リピーターの割合

・個人旅行者の割合は8割、リピーターの割合は6割。

・個人旅行者の一日当たりの平均消費額（14,408円）は、団体旅行者の1.25倍。

☆ 外国人旅行者の訪日動機

・アジア圏は「ショッピング」、「温泉」に関心が高い。
・欧米豪は「歴史的建造物の見学」、「伝統文化・工芸の体験」に関心が高い。

・各市場において「日本食」に関心が高い。

☆ 外国人旅行者の訪日目的、訪日回数から見た主要都市の特性

・札幌、福岡はアジアからの観光客が多く、リピーターが多数を占めている。

・京都と広島は欧米からの訪問客が多く、初めて来日する人が過半数を占めている。

・他の都市に比較して、名古屋は商用客が多くを占め、横浜は親族友人訪問の占める割合が最も高い。

☆ 関西の観光地としての優位性

↳ 魅力的な観光資源が関空から100km圏内に集中

↳ 多数の世界遺産…日本の世界遺産14ヶ所中5ヶ所が近畿圏

↳ 国宝の約6割、重要文化財の約5割が所在

↳ 鉄道、バス等公共交通機関の便利さ

・スルッと関西、近鉄レールパス、JRウエストレールパス等の外国人に対応した共通乗車券の利用。

・韓国ではPiTaPa対応クレジットカードがあり、相互利用できる。

↳ 関西地方の特性、アドバンテージを

全面に打ち出したプロモーションを実施↳

・増加傾向にある個人旅行者に訴求

・関西の観光魅力・移動の利便性を更に発信

・関西国際空港の利用促進

☆都道府県別延べ宿泊数（平成20年）

・東京都が3596万人泊で全国1位、大阪（1620万人泊）が3位、京都、兵庫が10位、11位

☆宿泊統計に見る近畿における延べ宿泊者数

（平成20年7月～12月）

・2163万人泊（全国の13・2%）で、う

ち外国人211万人泊（全国の19・5%）

・延べ宿泊者数は、大阪府、京都府、兵庫県
の上位3府県で近畿全体の82%

・国籍別では1位が韓国（317・330人

泊：前年比24%減）、2位中国（316・510人泊…同18%増）、



3位台湾（282・920人泊…同12%減）

・府県別国籍別では滋賀県、兵庫県においては台湾、京都府はアメリカ、大阪府、奈良県は韓国、和歌山県は香港がトップ。

・近畿全体の外国人比率は9・7%。（全国は6・6%）

☆観光案内所の充実

・訪日外国人の対応可能な観光案内所（ビジットジャパン案内所）は全国に1ヶ所。

・地方公共団体や観光協会等運営の案内所が全国に232ヶ所（平成20年度末現在）

・観光立国基本計画において平成23年度までに300ヶ所に増やす。

・外国人旅行者の多様なニーズに対応できる体制づくりや利用しやすい環境づくりといった質の向上を図る。

☆外国人による一人歩き点検隊の実施

・外国人の視点から、駅等の表示や使いやすさ、観光情報の案内について実地点検。

・駅などの「点」だけではなく、観光地に到達するまでの「線」で点検。

・点検結果を参考に関係者で改善方法を検討。

・点検隊から評価を得た事例をマスコミから国内外の利用者に発信、施

設事業者のPRにもつながる。

☆訪日外国人客向け医療の現状

・外国語対応可能な医療機関に関する情報の提供

☆YOKOSO! JAPAN大使の任命(成功者を活用した人材の育成)

・外国人旅行者の受け入れ態勢に関する「仕組み」の構築や外国人に対する日本の魅力の「発信」に貢献された方々を

YOKOSO! JAPAN大使として任命。

・平成21年5月までに49名を任命、

22年までに100名程度を任命する予定。

☆「VJC魅力ある日本のおみやげコンテスト」

・魅力ある日本のおみやげを育成、発掘し、地域ブランドの振興を図るとともに、おみやげを通して日本の魅力を海外に伝えることで、訪日旅行を促進する。

・外国人から見て特に魅力あるおみやげを選定し、受賞商品は成田、関西、羽田及び中部国際空港にて展示販売。



◇国内観光◇

☆国内宿泊観光旅行

・国民1人当たりの宿泊数は、平成15年の2.81泊から20年2.44泊に減少。

・旅行回数は1.70回(15年)から1.55回(20年)へ減少。

☆観光圏整備による観光旅客の滞在の長期化

・地域が連携して行う取組みへの国の支援

・観光旅客のニーズを踏まえた取組への支援

☆観光圏

・兵庫県淡路観光圏

(神話のふるさと淡路島を舞台にした御食国(みけつくに)体験)

・京都府丹後観光圏

↳ゆるりぐるりほっこり丹後↳

・びわこ・近江路観光圏

↳三方よし〴〵のふる里びわこ近江路水よし・里よし・人情よし↳

・聖地熊野を核とした癒しと蘇えりの観光圏

・にし阿波観光圏

↳歴史や伝統に彩られた日本の原風景の中で過ごす

心豊かな時間の創造↳

・四万十・足摺エリア（幡多地域）観光圏

四万十の恵と黒潮のかおり くでつかい探検フィールドはたゞく

☆分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議（丹後地域）

・すべての人に「分かりやすく」、「使いやすい」面的な公共交通ネット

トワークを実現するためにイベント列車運行、駅活性化、パークアン

ドレール、総合交通マップの作成等情報提供、利用啓発事業等を実施

する。

☆近畿の観光カリスマ

・観光振興の核となる人材を育てていくため、「『観光カリスマ百選』

委員会」を設立し、その先達となる人々を「観光カリスマ百選」とし

て全国で100名選定。

◇その他の取り組み等◇

☆地方の元気再生事業

☆観光副読本の作成

☆多様な食文化・食習慣を有する外国人

客への対応マニュアルの作成 等

◇平成22年度概算要求について



☆訪日外客誘致策のさらなる強化・充実

☆観光を核とした地域の再生・活性化

☆ワークライフバランスの実現に向けた環境整備

☆観光統計の整備

【参加者からの意見】

・鉄道を使った観光については、現時点、乗り継ぎが不便と思う。

・日本風景街道プロジェクトで、近畿で18ルート設定して研究している

が、「どういう人に来てほしいのか」を議論しているところは伸びて

いると思われる。

・色々な国の人が様々なニーズを持っている中、韓国などは観光に係る

要員が多い。

・経済同友会の観光部門での取り組みに反映させたい。

・NHKの来年の大河ドラマで「坂本龍馬」が放映されるが、地元とし

て観光客の増加に期待をかけている。

・外国の中でも自国語と同じ漢字圏を観光に生かしたい。

・奈良は宿泊施設が非常に少ないと感じている。

・日本人の中には外国人に部屋を貸したくないといった閉鎖的な考え方がまだいる。

- ・ 関経連とタイアップして、関西国際空港をどんどん利用してほしい。
- ・ 旅行者獲得へのチャンスを逃さない取り組みが大切と思う。
- ・ 眠れる商品ニーズの開拓も必要なことと思う。

第2回
かんこうけん
コロキウム
colloquium

平成22年
2月9日(火)

開会挨拶

(財) 関西交通経済研究センター

理事長 岩崎 勉

本日はお忙しい中お運び頂きまして本当にありがとうございます。今回は近畿運輸局交通環境部の小関部長にお願い致しましてご講演を頂きます。今回のテーマは物流環境に関わる動向でございます。

そして、今回のコロキウムでは私共が調査研究事業の新機軸として始めて2年目になります懸賞論文という企画があり、そこで優秀賞を受賞されました本庄由佳さん、日野晃宏さんの表彰式と論文の発表をして頂こうと考えております。

かんこうけん懸賞論文 表彰式

第2回「かんこうけん懸賞論文」には、総数で4編の応募をいただきましたが、審査の結果、姫路獨協大学の本庄由佳さんと日野晃宏さんの共同執筆による「城郭観光におけるバリアフリーに関する研究」が最優秀論文に選ばれました。(別掲記事参照)

表彰式には、この論文の指導にあられた姫路獨協大学の弓岡光徳、山野薫両先生も同行され、教え子の表彰状授与や、引き続いてのプレゼンテーションを温かい眼差しで見守っておられました。



かんこうけん懸賞論文 受賞論文発表

「城郭観光におけるバリアフリーに関する研究」



姫路獨協大学

本庄 由佳さん、日野 晃宏さん

◇バリアフリーの観点から日本の城郭（姫路、彦根、大阪城）を検証◇

☆検討動機

- ・今日交通機関や建築物のバリアフリー化が進展し、高齢者や身体障害者の外出も徐々に増加している。
- ・バリアフリー観光、ユニバーサルデザインという言葉も普及し始めている。
- ・一方で、国宝建築には文化財保護法の規制もあり、バリアフリー化を行うために、構造を大きく変更するには困難が伴う。
- ・近畿圏でも観光地として人気の高い3つの城郭を対象に、独自のチェックリストを作成し、項目ごとに採点をおこなった。

☆検証方法

- ・段差、傾斜、通路幅、トイレ、手すりの5つの検証項目を設けてチェックを実施。
- ・各城郭ともに観光用パンフレットに記されている順路に従いコース設定。
- ・学生が車椅子を自走し現地調査を行った。

☆検証結果

- ・チェックリストの結果、城郭観光におけるバリアフリーの障害となる主たるものは段差と傾斜であることが明確となった。

《結果の一例》

- 加点箇所…姫路城（26カ所）・彦根城（13カ所）・大阪城（7カ所）
- 段差平均点…彦根城（2・14点）・姫路城（1・75点）・大阪城（1点）
- 傾斜平均点…姫路城（1・43点）・彦根城（1・17点）・大阪城（1点）
- ・特に姫路城は傾斜が問題となり、彦根城は段差が問題となっている。

☆提言

- ・姫路城の段差には彦根城のような門毎の大きな敷居は存在しないため、大阪城のように楔状の鉄板を敷くことでバリアを



軽減できると考える。

・国内の先進事例として長野県の国宝善光寺では、本堂を傷つけることなく仮設スロープを設置している。このような方法が城郭においても採用することは出来ないだろうか。

・香川県金毘羅宮では、石段カゴを使うことにより、景観を損なわずに高齢者、障害者も観光を楽しめるように取組みが行われている。

・このような先進事例を参考にして城郭において、高齢者、障害者がバリアを感じることのないような施策が期待される。

【基調講演】

「物流・環境の現状と施策の動向」



近畿運輸局交通環境部長

小関 博子氏

◇ 物流の概要と物流・環境を巡る情勢の変化 ◇

☆ 国内輸送量の推移

・バブル経済期まではトンベース・トンキロベースとも右肩上がりで大増大。1990年代以降トンベースは減少傾向にある一方、トンキロ

ベースは横ばい。

・荷主の輸送ニーズを反映して、貨物の軽量化、輸送距離の長距離化が生じていると推測。

☆ 国際輸送量の推移

・トン数では海上輸送9億6406万ト（99・7%）が圧倒的だが、金額では航空輸送42兆2108億円（26・4%）で約3割。

・海上輸送・航空輸送ともに増加傾向。航空輸送の伸びは、トン数・金額ともに海上輸送を上回る。

☆ 情勢変化① 東アジア域内物流の「準国内化」

【日本の貿易相手国の変化】

・中国（香港を含む）との貿易額が急増（2000年から2008年で貿易額は約2・6倍、年平均約13%の増加）。2004年以降は、米
国を逆転し貿易相手国トップに躍進。2007年以降は香港を除いた
中国単独でも米国を上回りトップ。

・2008年の貿易額の内訳は、主な東アジア地域（中国、韓国、ASEAN等）で71・6兆円（44・7%）。

【日本と中国との水平分業の進展】

・中国に進出している企業（上場会社）で販売収入が上位500社のうち、日本企業は96社。

- ・そのうち、華東（上海市、江蘇省等）と華南（広東省、福建省）で69社（7割超）を占める

☆情勢変化② 環境対策の必要

【日本全体のCO2排出量】

- ・2020年までに、CO2を1990年比25%削減することを政府決定。（1月26日）

- ・日本のCO2排出量のうち、運輸部門からの排出量は約19%。
- ・貨物分野全体では運輸部門の39・6%、貨物自動車に限ると運輸部門の35・6%を排出。

【運輸部門のCO2排出量】

- ・2001年以降、運輸部門からの排出量は減少傾向。
- ・貨物分野は1996年をピークに減少し、2007年は9860万トン（基準となる1990年比で6・7%削減）。トラックの大型化や自営転換等の取組が効果をあげている。

☆情勢変化③ セキュリティ確保の要請

【各国におけるサプライチェーン・セキュリティの取組み】

- ・輸出前の非破壊検査機器を使用した貨物検査
- ・事前貨物情報の提出義務づけ



- ・税関当局間の連携

- ・AEO制度

☆総合物流施策大綱（2009・2013）

- ・グローバルサプライチェーンを支える効率的物流の実現
- ・環境負荷の少ない物流の実現等
- ・安全・確実な物流の確保等

◇グローバルサプライチェーンを支える効率的物流の実現◇

☆アジアにおける広域的な物流環境の改善

- ・物流に係るアジア諸国との各種の政府間対話等を実施
- ・物流に係るアジア諸国の広域開発計画を推進

☆貿易手続きの効率化 シングルウィンドウの構築

- ・FAL条約の発効に伴い、港湾手続きを簡素化
- ・2008年10月にシングルウィンドウ（府・省共通ポータル）が稼働

☆サプライチェーンとAEO制度

- ・我が国においては、関税法の枠組みにおいて順次、AEO制度の整備を図っている。
- ・これまでに輸出入業者（荷主）、倉庫業者を対象とする制度が運用されてきたところ。

- ・国際運送事業者、通関業者についてもAEO制度の対象とすべく関税

法改正により特定保税運送制度及び認定通関業者制度を創設。これによりサプライチェーン全体をAEO認定事業者でカバーすることが可能となった。また、平成21年7月より、製造者をAEO制度の対象とする制度が運用開始。

◇安全・確実な物流の確保等◇

☆安全・確実な輸送のための手配と実施の連携強化

・安全・確実な輸送の確保のため、輸送の手配と実施の連携強化、荷主の協力等について、国際物流・国内物流ともにその充実と新しい対応が求められており、コンプライアンスの徹底、貨物利用運送事業者と実運送事業者の連携強化等を進める。

☆トラック輸送における安全対策の推進

・先進安全自動車（ASV）技術等を活用した大型トラックの車両安全対策、トラック運送事業者の運行管理の徹底や監査の充実、運輸安全マネジメントの推進、交通安全施設等の重点的な整備、運停者教育をはじめとする交通事故防止等の安全対策を引き続き推進。

◇環境負荷の少ない物流実現等◇

☆物流連携効率化推進事業費補助金

・物流事業者、荷主企業、関係自治体等、物流に係る多様な関係者の連携による輸配送の共同化、モーダルシフトの推進等、物流効率化の推進を支援す

る制度。

☆グリーン物流パートナーシップ会議

・モーダルシフトや物流効率化を推進する為には、荷主企業と物流事業者の立場の違いの克服が課題。

・両者協働で行うプロジェクトを支援する「グリーン物流パートナーシップ会議」を平成17年4月に設立し、荷主・物流事業者の協働・連携による取組みを支援。

☆輸送機関別のCO2排出量原単位

・「モーダルシフト」とは鉄道・内航海運等の環境負荷の小さい輸送モードに転換することにより、CO2排出量削減等の環境負荷軽減を図ること。

・CO2排出量原単位（1トンの貨物を1キロ輸送した時に排出するCO2の量）を比較すると、トラックに比べて内航海運は1/4、鉄道1/6。モーダルシフトはCO2排出量削減に有効。

☆物流部門におけるエコポイント制度

・エコポイント制度とは、省エネ、ゴミ減量、省資源等の環境に配慮した取組みを、ポイント付与を通じて促進する仕組み。ポイントはスタ



ンブやICカードの形で蓄積し、商品やサービスに交換することが可能。

☆改正省エネルギー法 エネルギー使用効率の向上

・京都市議定書の発効等を受け、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（1979年制定）が改正され、2006年4月から施行。

・特定運送事業者（旅客・貨物）及び特定荷主が規定され、エネルギー使用の原単位を中期的に見て年平均1%以上低減に向けた方策等を記載した「中期計画」の作成と「定期報告」が義務化

☆輸送モードごとの総合的な対策①

☆輸送モードごとの総合的な対策②

・内航海運、フェリーの競争力強化



【参加者からの意見】

・スーパー中枢港湾について、昨年10月に出来たばかりで直ぐに総括と
いっても困難ではないか。

・3つのスーパー中枢港湾から更に1つの港湾を選考するとすると、議

論の余地なく京浜港ではないかと思う。

・一方で、京浜港に資本投下を集中すると、大阪・神戸、名古屋の港は
どんどんと衰退する懸念がある。

・シングルウインドウについて、24時間365日港が稼働するというこ
ともありえるのか。

・東アジアの諸港は昔から24時間365日の稼働が当たり前になってい
る。日本で実施しても夜間、休日に割増料金を取るとなると完全オー
ブンとは言えないと思う。

・大阪港に中国から来るコンテナ船は全てが水曜日に入港する。従っ
て、特定曜日が混雑せざるを得ない実情がある。

・神戸などに中国からの船を分散入港させればよいような考え方もある
が、現実には、一大消費地の大阪への荷物が多い中では、神戸に着い
たコンテナを大阪へさらに陸送させるのは現実的でないとの判断がな
される。

・トラック物流について、納入にエコ車でないと認めない百貨店も出て
きている。

お役に立ちました！ サロンセミナー

(財) 関西交通経済研究センターでは、会員各位に具体的なメリットを提供するとともに、広く一般社会への情報発信機能を強化し、その情報を各分野で有効に活用していただくことを目的に07年度より「サロンセミナー」に取り組んでいます。

過去3回開催させていただいた「サロンセミナー」は、それぞれに時宜を得たテーマとして聴講者の皆さんから好評を頂戴しておりますが、なかでも、第3回の枚本日出夫(すぎもとひでお)氏(東大阪宇宙開発協同組合理事長)を迎えての『やりました夢の実現！』『まいど衛星』

自社経営に活かす衛

星開発』をきっかけに、第五管区海上保安本部から具体的な成果が生まれたとの御報告を頂戴しましたのでご紹介します。

このセミナーに参加いただいた大島啓太郎第五管区海上保安本部長は、枚本講師の会社が持つておられるノウハウが、第五管区海上保安本部で開発・運用に取組んでいる「非随伴型GPSデータ送信機空中投下装置(略称「NAGAS」)」に活用できるのではと枚本さんの協力を求められました。その結果、従来の性能が大幅に向上し海難救助に大きく寄与する成果を生み出すことができたそうです。



’09年度「サロンセミナー」

連絡先
警備救護部救護課 救護課長 田島
電話：078-991-6551 (内線 3250)
海洋情報部海洋調査課 海洋調査課長 杉山
電話：078-991-6551 (内線 5530)

平成21年12月24日
第五管区海上保安本部

「NAGAS」の配備と開発協力者への表彰

1. NAGASについて

第五管区海上保安本部では、捜索活動の一助とする新たな機器である、「非随伴型GPSデータ送信機空中投下装置(略称:NAGAS(ナガス))」の研究・開発を行ってまいりましたが、試験運用を重ね実用化にいたり、関西空港海上保安航空基地等に合計8基配備し、捜索救助に活用していくことにしています。

このNAGASは、

- ① 迅速に海難等の発生現場に到着できる航空機から投下し、
- ② プイの位置を衛星を経由して自動的に送信することにより、
- ③ 迅速に捜索現場の潮流を把握し、漂流予測等に活用するための機器です。

2. 開発協力者への表彰について

NAGASの開発にあたっては、プロトタイプが各種試験に成功したことから、阪神地区に所在する「株式会社フロンティアスピリッツ」及び「大阪電器株式会社」に、耐久性がありメンテナンス及び取扱が容易であるNAGASの製作を委託し汎用版を完成させました。

また汎用版において、「まいど1号衛星」を打ち上げた東大阪宇宙開発共同組合の理事長が代表取締役を務める「株式会社大日電子」から、通信に関する技術的アドバイスを頂き、送受信効率が高齢的に向上しました。

開発にあたり多大な貢献をいただいた上記3社等に対し、第五管区海上保安本部長表彰を行います。

○ 表彰期日 平成22年1月27日

○ 表彰者

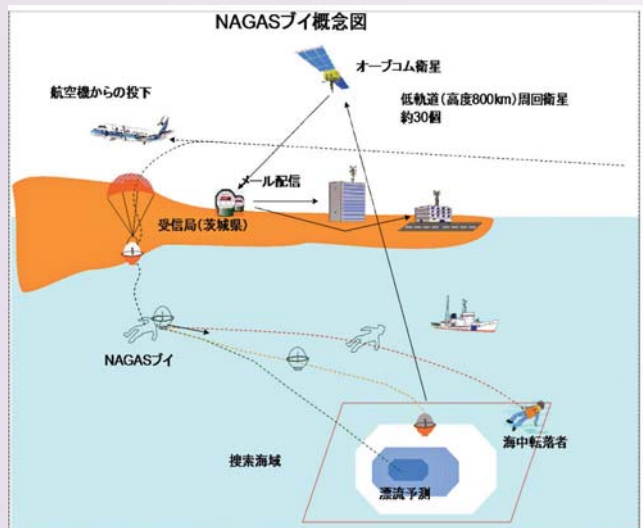
(1) 部外

- ・株式会社 フロンティアスピリッツ (神戸市中央区大日通4丁目3-16)
代表取締役 新井 義広(あらいよしひろ)氏
- ・大阪電器 株式会社 (大阪市城東区開目6-10-20)
代表取締役 布川 恒一(ぬのかこういち)氏
- ・株式会社 大日電子 (大阪府吹田市市江の木町12番27号)
代表取締役 枚本 日出夫(すぎもとひでお)氏
- ・山内 一良(やまうちかずよし)氏

(2) 部内

第五管区海上保安本部警備救護課、海洋情報部

※備考 NAGAS : No Attendant GPS data transmitter Air-drop buoy System



改定版安マネ読本

たいま好評発売中

事故防止等安全対策マニュアル 2010年版

◆わかりやすい
運輸安全マ
ネジメント導
入の手引

◆運行管理・整備管理
業務にも役立つ内容

◆中小規模事
業者が取り
組みやすい
チェックシ
ートを盛り
込んでいま
す。



●直近の通達改正等に即した見直しを行いました。
●準大規模事業者・中小規模事業者の運輸安全マネジメント実施に当たって、参考事例をふんだんに取り入れています。

《別冊付録》安全管理・運行管理業務等チェックシート

日常業務に役立ててください。

お問合せ先：財団法人 関西交通経済研究センター
TEL 06-6543-6291

販売価格：500円（税込）

環境保全是

私たちひとりひとりに課せられた

避けては通れない

重いテーマです。

大阪府トラック協会は

環境保全是

どこまでも追求していきます。



OSAKA TRUCKING ASSOCIATION

社団法人 **大阪府トラック協会**

〒536-0014 大阪市城東区鳴野町西2丁目11番2号
TEL.06-6965-4000(代表) FAX.06-6965-4019

運送事業者のパートナー



 **近畿交通共済協同組合**

〒536-0014 大阪市城東区鴨野西2-11-2 (大阪府トラック総合会館内)

TEL:06-6965-2828 (代) FAX:06-6965-2838

<http://www.kinky.or.jp> E-mail:kinky@kinky.or.jp

Quality First.

SCM 新提案、センコー。

センコーは、国内トップクラスの物流センターと、世界20カ所に広がる現地法人・駐在員事務所を有し、
陸・海・空の輸送モードを組み合わせたグローバルネットワークで、
お客様の原料調達から最終納品までサプライチェーン全般の効率化を強力に支援しています。



流通情報企業へ—。
 **センコー株式会社**

www.senko.co.jp
〒531-6115 大阪市北区大淀中1-1-30-1500
TEL.06 (6440) 5155



News 52

<http://www.gotsu.co.jp>



毎日、ホームページを見てほしい、だから。



ハコビーヤ!

編集後記

なんか、地球が変です。中国で、南米で、世界のあちこちで地震が頻発。あの阪神大震災を経験した私たちにとって、とても他人事とは思われません。ただ、あの痛ましい教訓が多少ながらも薄れつつあることが心配にもなるのですが…

日本の気候は四季に恵まれて折々にその風情を楽しませてくれるはずなのですが、今年は春先に季節外れの雪が降り、夏日が来たかと思えば、冬の寒さがぶり返す……、桜の花も戸惑ってしまい、桜前線も行ったり来たり、あげくは満開の状態がずいぶん長い期間続いたそうです。

自然が迷走するのに合わせたわけでもないのですが、日本の社会も何やら落ち着かない状態が続いています。景気の回復も期待しているほどは進まず、こればかりは桜の満開時期が続くのと違って早く季節の移ろいを見せて、暑い夏の日差しのように活気を見せてほしいものです。

奈良県では、平城遷都 1300 年祭が本年一年間にわたって繰り広げられます。それを記念して、奈良県知事様からの寄稿を頂戴しました。世界遺産の旅も、奈良の唐招提寺をご紹介します。皆さんも是非「せんとくん」に会いに行かれてはいかがでしょうか。

本号も多くの皆様のご協力をいただいて無事発行することができました。

心からの感謝を申し上げますとともに、(財) 関西交通経済研究センターに対する変わらぬご支援をお願いする次第です。

(財) 関西交通経済研究センター

常務理事 坪倉啓三

本誌は、競艇公益資金による日本財団の助成金の交付を受けて編集発行したものです。

関交研 春季号

2010年発行

編集発行 財団法人 関西交通経済研究センター
編集兼発行人 坪倉 啓三
〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目7番2号(ウェスト・スクエアビル 9F)
TEL 06 (6543) 6291
FAX 06 (6543) 6295
e-mail a.kankou@kankouken.org
URL <http://www.kankouken.org>

賛助会員制度とご入会のご案内

当センターは、関西経済圏における交通経済に関する総合的な調査研究を行い、関西の社会、経済の発展に寄与することを目的としています。

当センターでは、事業活動をご活用いただきますとともに、事業運営につきましてご支援を仰ぐために「賛助会員制度」を設けており、現在、数多くの法人会員及び個人会員皆様方にご協力をいただいておりますが、当センターの事業活動を一層活発に推進するためには、より多くの皆様方に賛助会員となっていただき、財政基盤の更なる強化を図っていく必要があります。

皆様方におかれましては、当センターの事業目的並びに「賛助会員制度」をご理解いただき、ぜひともご入会、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

賛助会員には次のような便宜がございます。

- 1 当センター主催の講演会、セミナー等への優先ご出席の取扱い
- 2 当センターに対する交通経済及び観光に関する調査研究の委託
- 3 当センター作成の資料、定期刊行物及びその他の報告書類の配付
- 4 当センター備え付け資料の閲覧及び借り出し
- 5 交通経済及び観光に関するコンサルタント業務の利用
- 6 調査研究に対する意見の開陳

なお、法人賛助会員のご入会に際しましては、「拠出金」として10万円を入会時に納入していただくことになっております。この「拠出金」は財団の基本財産に組み入れさせていただいたうえで、当センターの運用資金の財源として管理させていただきます。

「賛助会員規程」(抜粋)

(賛助会費)

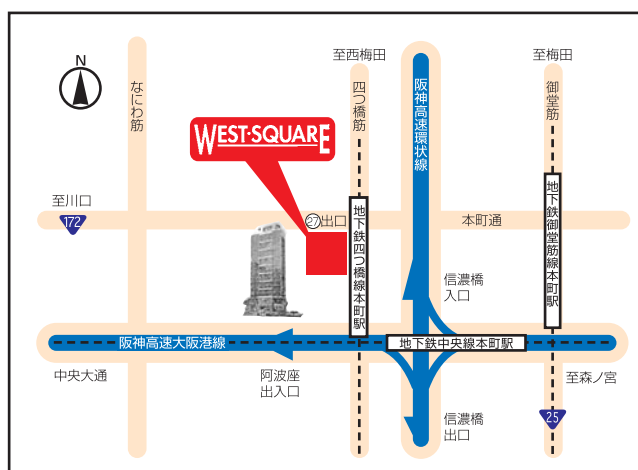
- 第9条 …………… 賛助会費は、年間1口1万円とする。
ただし、新規入会の際の口数は次のとおりとする。
- (1) 法人賛助会員 5口以上 (2) 個人賛助会員 1口以上

(拠出金)

- 第10条 …………… 法人賛助会員は、入会の際基本財産に対する拠出金として10万円を納入しなければならない。

(会費等の返還)

- 第11条 …………… 賛助会員が退会し又は除名された場合は、すでに納入した賛助会費及び拠出金は返還しないものとする。



〒550-0005
大阪市西区西本町1丁目7番2号 ウェスト・スクエアビル9階
TEL06(6543)6291 FAX06(6543)6295
e-mail a.kankou@kankouken.org
U R L <http://www.kankouken.org>